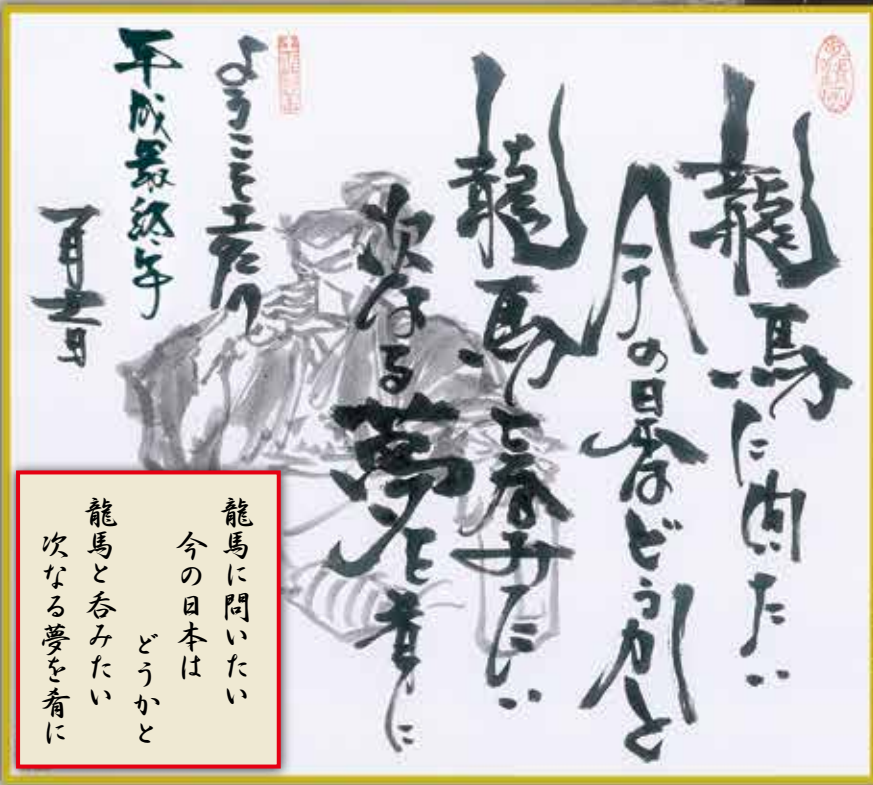


# スタート

— 新しい年へ —

今年、天皇陛下が四月三十日に譲位され、皇太子さまが五月一日に新天皇に即位されます。平成が終わりと、新しい元号が始まります。その他の儀式も続くとのこと、日本国民として厳粛なところで結ばれる特別な年となると思います。



龍馬に問いたいの日本は  
次なる夢を着たい  
どうかと

松井拓夫の

福井県議会・自民党  
新生会通信

県議会だより

発行日:  
2019年1月20日

第64号



携帯電話のバーコードリーダーでアクセスしてみてください。



# あんなこと・こんなこと…思うがままに。

## 「拓ちゃん日記」のひろく

私の「松井拓夫事務所」は気軽に訪れて頂けるよう「拓ちゃん」と看板を掲げておりますが、今後皆様も皆様の憩いの場として活用して頂けたらと思っております。ここは我が家業の事業所だったところですので、半分の前方は事務所として来客対応や書類や原稿の作成などをしていきます。また、後方の棟は子どもの遊び場、ダンスの練習場や発表会前の踊りの練習、カラオケを楽しんだりしてました。また反省会・懇親会、打ち合わせ会にも利用してました。

### ◆ご利用サークルご紹介・ふれあいサロン〈愛花の会〉

3年ほど前から町内の60〜80代の方々10名余りの方が参加しておられるサロンです。

月2回、午後1時半〜4時頃まで、まず持ち寄ったお菓子などで、お茶やコーヒード話に花が咲きます。そしてカラオケタイムです。懐メロが多いですが大変にぎやかです。途中で絵本や紙芝居タイム。またカラオケを楽しみ、最後にテレビ体操をしてしめくくりです。中には一人暮らしの方もおられ、本当に楽しみにおられます。元気に明るく生きるためには交わり、話す、笑うことが一番。これからは前方の事務所側もお集まりや打ち合わせ等に遠慮なくご利用ください。議員の任期も4月末で満了します。私も明るく元気に毎日を送るために「でかける・見る・聞く・交わる」積極的な生活をして、元気に地域のお



## 高知県へ視察研修に行ってきた。

1月7日・8日と高知県に視察研修に行ってきた。県議会議事堂で県職員の各担当の方々に高知県の現状についてご説明を頂き、福井県の紹介や両県の諸問題について意見交換をしてきました。また、2日目に高知県立坂本龍馬記念館で高松清之館長さんと意見交換の上、館内を説明・案内をして頂きました。人口減少が著しい日本、国際的な問題等々、大政奉還を推し進め、海援隊など海運業・貿易商社を設立したスーパードー、坂本龍馬が現在の日本をみたらどう言うでしょうか。

### 議会事務局 政策調査課にて

- ・人口減少対策について
  - ・空き家対策について
  - ・観光振興の取組み事例について
- 高知県は鳥取県・島根県に次いで3番目に人口が少ない県です。

そして、人口減少も高齢化も全国に先駆けて進んでいて経済規模も落ち込んできているとのこと。当然、空き家対策も現実急務の問題であり、これは全国的かつ福井県も同様です。地産外商（地元の産物を直接販売する）・数値目標を精緻化した施策を進めていると説明されました。

### 高知県立 坂本龍馬記念館

○記念館に松平春嶽や由利公正、横井小楠・橋本左内・中根雪江達の写真や登場する文書が見えました。福井県の偉人達を改めて誇りにすると共に、高知藩と福井藩の深いつながりを感じました。遠く離れた高知県の博物館で福井が登場する文書がたくさん残されていて、改めて福井(越前)の力を認識しました。





## 活動の記録



手伝いをしていきたいと思っておりますので大歓迎です。お待ちしております。

### 拓ちゃんボランティア 《2011年》

3・11 東日本大震災にあたり、県のボランティア隊に参加して陸前高田市にボランティアに行ってきました。あまりの悲惨さに言葉もありませんでした。そこで勝山の皆さんに参加してもらってそのナマの惨状を見て頂き、復興のお手伝いをしようと呼びかけました。25名の方が申し込んでくださって「拓ちゃんボランティア」として「NPO法人ふくい災害ボランティアネットワーク」のご指導のもと、現地で一生懸命に働いてきました。その中の数名の方々は「チームふくい」に参加、陸前高田市や福島県に何度もボランティアに参加しております。また、各地で災害が起きる度に何度も行っておられます。昨年はスーパーボランティアの尾島幸夫さんが大変な話題になりました。我が勝山にもこのような方が何名かおられ、頭が下がります。

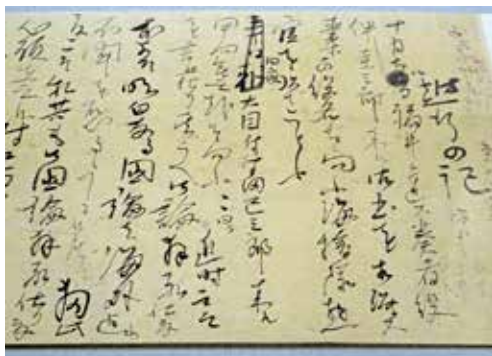
陸前高田のリンゴ農家との交流は今も続いていて、リンゴの販売をしています。干し柿も仕入れています。両方ともとても美味しくて大好評です。



### 坂本龍馬直筆『越行の記』（越前行きの記事）

坂本龍馬は11月15日、33歳の誕生日に暗殺されました。その暗殺10日以内に書かれた龍馬直筆の手紙が「越行の記」です。その内容は後藤象二郎に宛てた、大政奉還後の日本国および新政府の財政計画、人材に関するもので、財政に精通している由利公正こそ新国家樹立に不可欠な人物だ、ということが強調されている書状です。

### 付記



龍馬の福井行きは、後藤象二郎の命を受けたもので、10月24日に福井へ向かい、11月5日に京都へ帰ってきた。福井行きの目的は2つあった。まずは、大政奉還後の徳川家のあり方について前福井藩主・松平春嶽の考えを聞くことで、春嶽の手紙を預かってきた。もう1つは、新政府の財政問題の解決策を三國八郎に聞くことで、おそらく紙幣発行の案を聞いたと考えられる。龍馬は、「新政府財政担当は三國しかいない」と強く推薦してい

○「県民性としては龍馬のように男らしい男性が多いのでしょうか？」と聞いたところ、「いや、女性が強いですね。「はちきん」にはかないません。」と言われた。男勝りな高知の女性を「はちきん」と総称。高知県男性のことを「いごっそう」といい、頑固で一本気、豪快という意味だそう。

○市内の通りに中岡慎太郎・坂本龍馬・武市半平太3人一緒の像があり、未来をみつめていた。板垣退助等たぐさんの土佐勤王党の維新の偉人たちが日本の夜明けを導いたのだ。

○県議会でも龍馬記念館でも観光の話に「恐竜博物館」の話をする。皆さん「いいですね」とその場が弾む。やはり恐竜はすごく魅力的な素材なのだ。恐竜博物館を更にバージョンアップして福井県の観光をもっともっと強くしなければならぬと思つた。福井県は外国人宿泊者は全国で2番目に少ない。インバウンド（外国人観光客）はたくさん消費をして外貨を落としてくれるのであり、誘致にもっと力を注ぐべきである。

# 県会自民党代表質問より

(要旨のみ)

## 問一 知事の政治姿勢について

① 県政運営における長期ビジョンの必要性について所見を伺うとともに、福井県民の将来ビジョンの位置づけをどうしていくのか。

平成22年につくった「福井県民の将来ビジョン」は、およそ10年間を見通し、県民の皆さんと行政が共有すべき将来像や行動指針を示すものとして、県議会ははじめ各界各層と議論を重ね、つくったものです。

ビジョンに掲げた目標は、マニフェストや政策合意を通じて実現を図っており、策定から8年近くが経過した今日、概ね達成しています。

福井県では今後4年余りの間、将来の県勢発展を左右する重大な局面を迎えます。特に、新幹線など交通条件の抜本的な革新を活かした将来像について、県・市町・企業、そして県民の皆さんが中長期的な見通しや方向性をぜひとも共有すべきタイミングにあり、今後、新たなビジョンを策定する必要があります。



## 問二 来年度の当初予算編成について

① 来年度の当初予算をどのように編成していくつもりなのか。

来年度の当初予算は、いわゆる統一地方選挙のため、「骨格予算」を編成することになります。新たな政策、制度については、選挙後の補正予算案として議会に提案するのが通例です。



しかし、医療、福祉、教育など県民生活に密接し、切れ目なく実施する必要がある事業については、当初予算において計上されています。

また、現在課題となっており、ます人手不足、人材不足に対応した新たな企業の支援とか、4年後に迫った新幹線開業に向けた駅周辺のまちづくり支援など、時期を逸せず速やかに実施すべき事業についても、選挙により支障が生ずることのないよう予算編成をします。

また道路や河川、公共施設などの維持補修費予算についても、平成19年度から29年度まで、10年間でありますが、約2倍に増やしており、厳しい財政状況の中で、引き続き、県民生

活に継続的に支障がないよう必要な予算を適切に確保していきます。

## 問三 北陸新幹線の整備促進について

① 財源確保に向けた、政府・与党の動向について。

自民党の整備新幹線等鉄道調査会長に就任された稲田衆議院議員は、敦賀開業後、間を置くことなく敦賀以西に着工するため、財源問題にスピーディーに対応したいと発言されており、鉄道調査会のもとに、敦賀以西の財源確保に関する検討組織を年内にも発足させる動きも出ております。

また、一昨日28日の与党プロジェクトチーム会合において、JR西日本社長から、敦賀以西については、貸付料のルールの見直し例えば、算定期間の延長の余地があるという考えをにじませていきます。

今後は、JRの理解・協力も得ながら与党において財源検討を速やかに進め、早期に政府・与党における議論に移行し、敦賀開業までに着工できるように、財源を決定することが重要であります。

県選出国会議員には、県が提案している財源も参考に、是非ともこの議論を主導していただきたいと思います。

## 問四 土木行政について

① 中部縦貫自動車道全線開通に向けた財源確保の見通しについて所見を伺うとともに、舞鶴若狭自動車道の4車線化に向けた状況と今後の方針について。

中部縦貫道については、今月9日に中部縦貫道の広域同盟会が、そして、13日には私も、国交省に出向き、全線開通に向けた予算確保を要請したところであり、今後とも、国会議員のみならず、県議会、沿線市町のみならずと協力し、国に強く働きかけていきます。

一方、舞鶴若狭自動車道は、日本海側を東西に結び、国土の複軸化を図る上で重要な路線です。

実際、今年6月の大阪北部地震では、広域的な迂回ルートとして機能発揮がなされており、7月に国が発表した、優先的に4車線化を実現すべき高速道路の区間としても選定があったところではあります。

そして今月5日には、県議会と合同で要請をし、この舞若道の付加車線の特定区間での設置拡大を含めた早期4車線化を要請しております。引き続き、関係者とともに、国交省、高速道路株式会社に対して、働きかけてまいります。

## 問五 健康福祉行政について

① 県内における医師不足の現状についてと今後の医師確保の見通しについて。

本県の医師数は、全体では全国平均を上回っていますが、地域的偏在や、診療科偏在が見られ、特に内科、産婦人科、小児科等の医師不足が課題です。

これまで、嶺南地域など医師不足地域への自治医大卒業生や福井大学薬学生等を派遣し、その数については平成26年度は28人でありましたが、今年度は43人になっており、2年後には62人になる見通しです。

また、不足診療科の医師を目指す研修医や、これを確保した病院への応援、指導医の資格取得支援などによる不足する診療科の医師確保にも努めます。

さらに、来年度、奥越、丹南、嶺南地域における医師不足解消に向け、将来の患者数等をもとにした医療ニーズをもとに目標医師数と対策を定めた医師確保計画、2020年度〜2023年度の計画を作りこの問題の解決に当たります。

